

「流域計画・流域管理課題分野」(平成28年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
堤防脆弱性タイムラインと破堤氾濫予測に基づいた堤防強化対策及び氾濫危機管理技術に関する研究（研究期間：H28年～H29年）	中央大学 田端 幸輔	B
<研究概要> 平成27年9月洪水時に堤防決壊を含む多くの堤体被災が生じた鬼怒川を対象に、堤防破壊危険確率と堤防脆弱性指標の時間変化（タイムライン）から堤防の破壊危険性を評価し、堤防強化対策実施による効果を定量的に見積もる手法を開発する。また、平成27年9月洪水時の氾濫流の再現により、流域氾濫特性を明らかにするとともに、大規模洪水に対する流域全体の治水、危機管理対策を検討していく上で必要な技術課題を明らかにする。		
<事後評価コメント> 氾濫流の挙動を精度良く表現し、避難行動の検討につながる河川工学的に完成度の高い知見が得られており、研究目的は概ね達成されたと言える。 今後は、避難路の配置、高齢者や子供を対象としたリードタイムの検討などタイムラインや防災計画に資する研究をさらに深めるとともに、流域計画・流域管理分野とも連携しながらまちづくりへの活用を視野に入れた研究に進展させることが期待される。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い